

地域へのニーズ・実態等のヒアリング結果について

～コミュニティ・スクール連絡会議への参加～

コミュニティ・スクール連絡会議とは

地域で育てたい目指す子ども像や、9年間を見通した学校間及び学校と地域の連携方法について話し合う会議

<参加者例> 区長会長、民生委員代表、高齢者クラブ代表、交流館長、PTA 会長、地域学校共働本部コーディネーター、校長、教頭 など

1 参加目的

- ・ 休日部活動の地域移行に対する市の考え方や現状を地域と共有する。
- ・ 地域の特色や実情、キーマンとなる人物等を知ることによって仕組みづくりに生かす。

2 参加状況

- ・ 全中学校区（28 地区）中、25 地区の連絡会議に参加予定（5月26日から9月12日までに21地区に参加済）
- ・ 教育委員会学校教育課、生涯活躍部文化振興課・スポーツ振興課の3課職員で参加
- ・ 「豊田市の休日部活動の地域移行」、「休日部活動の地域移行を契機とした新たな仕組みの検討状況」について説明するとともに、各学校の地域連携の取組等について情報収集

3 主な意見

(1) ニーズ・実態の把握について

- ・ 十分な現状把握や評価・分析がなければ、持続可能な仕組みはつukれない。
- ・ 子どものニーズや悩み事等をしっかり押さえた上で、制度を構築してほしい。
- ・ 才能があっても家庭環境に恵まれず、スポーツ活動などができない子どももいる。地域移行によって、そうした格差が広がらないよう検討していく必要がある。

(2) 指導者等の人材について

- ・ 地域人材の不足が懸念されるため、地域を超えた「人材バンク」も設けるべき。
- ・ 持続可能な仕組みにするためには、指導者の安定的な確保が必須。行政には、そのために必要な予算措置をお願いしたい。
- ・ 平日と休日で指導者が異なることで、生徒が戸惑うことがないようにしてほしい。

(3) 活動場所について

- ・ 引き続き学校の体育館等を中心に活動をしていくのであれば、鍵の開け閉め等をどうするか整理してもらう必要がある。

(4) 大会への参加について

- ・ 大会の参加基準が変更となる場合は、保護者等へ早めに情報提供してほしい。

(5) 地域との連携について

- ・ 令和8年度からの目指す姿『世代を超えた様々な人々が、子どもの活動に関わり、自らも楽しんでいる』の具体例を早く示してもらえれば自分たちの関わり方も考えられる。
- ・ 地域独自の施設や伝統芸能を活用してほしい。
- ・ 教員や地域学校共働本部の努力だけで検討・維持していくのは難しい。全市的な部活動の仕組を整理してから、地域に相談すべき。

(6) 地域課題について

- ・ 少子化の進行によって地域の子どもの数が今後一層減少する。そうなるとう学校単位でのチーム編成や活動の継続が困難になるため、方法等を検討していく必要がある。
- ・ 都市部と山間部の学校では状況が異なるため、市内一律ではない仕組みを考えるべき。